

# 令和3年度（第33期）

## 事業報告書

令和3年4月1日～令和4年3月31日



[この写真](#) の作成者 不明な作成者 は [CC BY-SA](#) のライセンスを許諾されています

一般財団法人 付知町振興公社

## 令和3年度（第33期）事業報告の概要

コロナウイルス感染症のパンデミックは今期に入っても終息が見えず、昨年同様イベントもほぼ中止となったほか、東京オリンピックによるインバウンドへの期待も裏切られ、残念ながら売り上げの改善は見込めなかった。一方で蔓延防止法の適用により、温泉で37日の休館を含め168日間のべ706営業時間が短縮された。花街道では135日間309時間の時短営業となり、数字的には花街道、温泉ともに前期とほぼ同程度の売り上げ、客数となった。これを受けて中津川市からは昨年度同様、指定管理料として花街道に、1300万、温泉に667万が助成給付されたが、前年度の管理料の超過分として花街道207万、温泉で772万の返還を命ぜられこれを実行した。

その他特記事項として、ホームページをリニューアルし、スマホ対応となり利便性が高くなり、より多くの方への情報拡散の期待が持てるようになった。また、これを機に7月よりオンラインセールスを開始、現在のところ25件 売上¥125,000に留まり、まだまだ大きな売上とはなっていないものの、今後の商品（現行19アイテム）拡充はもとより商品写真、商品の組み合わせなど、旅行者、来客者への宣伝広告（商品にQRを張り付ける）等を検討し、販路拡大に挑戦していきたい。加えて11月より「ふるさと納税」の返礼品として5アイテム（けいちゃん、ブルーベリージャム、温泉入浴券など）の返礼品出品を始め、現在までに10件の注文（売上3万円）があった。

温泉においては、コロナ禍におけるキャンプブームから、キャンプ客の利用が多くあった。一方でサウナが故障するなど老朽化による故障修繕費用は年々大きくなっている。また、光熱費、仕入れ材料単価が高騰していることから経費が圧迫されてきた。来年度は、入浴料金の値上げを考えている。

ローソンについては、客数及び売り上げは昨年比8.5割と落ち込み、5期連続の赤字となり、7月の契約更新を行わず、6月末をもって事業を停止することを、理事会、評議員会を通して決定した。ローソン側と交渉協議の後、7月からは別経営者によりフランチャイズ店として現地にて経営を続けることになり、振興公社とは賃貸契約を締結することとなった。（月額25万円 3年更新）

地域事業としては、中津川市が、東京大学工学部と研究実験を行っている次世代交通網プロジェクト（自動運転など未来技術の実装都市計画）に参加、令和4年1月には「未来社会実装協議会」が立ち上がり、付知町振興公社も協議委員として参加していくこととなった。今後の付知町内への自動運転施設および技術の導入とともに、交通網のハブとしての道の駅の役割が大きく見直されることになり、将来的には駅舎のリニューアル等も計画されており、今後実現に向けて進んでゆくことと期待している。また同時に花街道裏に位置する付知川河川敷を利用した「ミズベリングプロジェクト」も協議会が立ち上がり、今後次世代交通網と合わせ観光客を誘致が望める大きなプロジェクト、目玉として捉え実現に結び付けられるよう協力してゆきたい。